

なる様になる迄だ

体のだるいのはまだ取れぬ。

やがて、時間になり、バスで出発だ。

バスに乗ると、ガイドさんがジロジロ僕を見る。

「あっ」と驚く、

「夕べの女の人はこの人かも！」

しかし、考え直した。

「いや、ちがう、僕の顔が、炭が取れて、
きれいになったのを、見ているだけかも。」

もう、さっぱりわからん。

僕の頭は混乱した。

あの子も、バスガイドさんもよく似て見える。

バスはもと来た山道に戻って行く。

下り坂なので、運ちゃん、すごく飛ばす。

少し怖い。

カーブを曲がる時、
バスの車輪が片側浮いている様で、
皆が、「ワーア」とか、「アーア」とか、
いっせいに言うのが聞こえる。